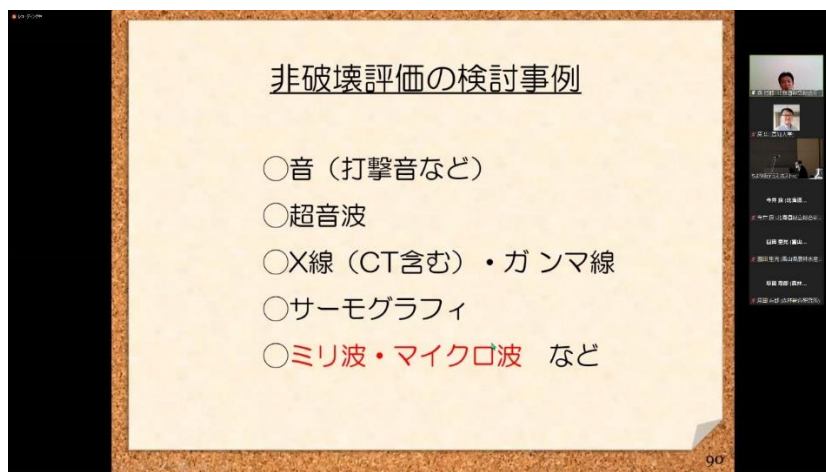


木材利用シンポジウム 2022 in 高知  
～近年の木材利用の動向～ を開催しました。

2022年1月25日、高知大学防災推進センター主催による「木材利用シンポジウム 2022 in 高知 ～近年の木材利用の動向～」を、オンラインにて開催しました。本シンポジウムは、四国土木木材利用研究会、公益社団法人高知県土木施工管理技士会と共同で実施したものです。

シンポジウムでは、四国土木木材利用研究会会長で、高知大学防災推進センター原忠副センター長による開会挨拶にはじまり、北海道総合研究機構森林研究本部林産試験場の森満範氏による木材の耐朽性評価と関連技術に関する基調講演と、富山県農林水産総合技術センター木材研究所の園田里見氏による「大径化した富山県産スギの構造利用技術の開発」、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所九州支所長の塔村真一郎氏による「国産材 CLT の開発と普及に向けた取り組み」、北海道総合研究機構森林研究本部林産試験場の今井良氏による「北海道における地域材の土木利用と利用拡大に向けた取り組み」、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所の原田寿郎氏による「防耐火から見た建築物の木造化と進展」の4件の最新の研究事例がオンラインにて紹介されました。

コロナ禍での開催でしたが、北海道、京都、熊本などから土木や木材に関心の高い技術者などのオンライン参加があり、全国から90名余りの方々が聴講され、関心の高さが伺えました。



基調講演（森満範氏）

なぜこの話題なのか？

- 人工林資源は**大径化し、材質も変化**している。
- 国の全国的な取組みのほかに、**地域の樹種や品種、事情に適した地域の取組み**も必要。  
その事例(取組み方)の紹介。

3

講演 1 (園田里見氏)

四国木材利用シンポジウム 2022/1/25ちよテラホール

## 国産材CLTの開発と普及に向けた取組み



CLTパネル工法による森林総合研究所九州支所共同実験棟 2018年竣工

九州支所長 塔村真一郎

FFPRI 森林総合研究所  
Forestry and Forest Products Research Institute

1

講演 2 (塔村真一郎氏)

### 1. はじめに

◎ 土木分野で木材を活用する際のメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li><b>木材の大量利用</b> 土木構造物は建築に比べて大規模な工事が多い</li> <li><b>省エネルギー化</b> 金属やコンクリート等に比べて製造エネルギーが小さい</li> <li><b>景観の向上</b> 無機質な従来構造物よりも景観に親和性の高い意匠を創出しやすい</li> <li><b>廃棄にコストがかかりにくい</b> 分別することで廃棄物をエネルギー利用することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>具体事例が少ない</b> 行政担当者の選択肢が少ない</li> <li><b>維持管理コストが見えにくい</b> 事例が少なく維持管理における情報も限られている</li> <li><b>強度や耐久性が低い</b> 土木構造物に必要な強度や耐久性を得るための情報が少なく設計が難しい</li> <li><b>初期コストに割高感</b> 大量生産に向いていないため初期コストが割高になりがち</li> </ul>

2022年1月25日 木材利用シンポジウム2022 in 高知～近年の木材利用の動向～  
(3) 北海道における地域材の土木利用と利用拡大に向けた取組み

5

講演 3 (今井良氏)

国立研究開発法人 森林研究・整備機構  
森林総合研究所  
Forestry and Forest Products Research Institute

2022年1月25日  
高知  
木材利用シンポジウム2022 in 高知

防耐火からみた建築物の  
木造化、木質化の進展

(国研) 森林研究・整備機構 森林総合研究所  
研究専門員 原田 寿郎

353  
1

Forestry and Forest Products Research Institute

講演 4 (原田寿郎氏)